

自己点検・評価シート

基準 I 建学の精神と教育の効果

		自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期	
基準 I-B 教育の効果	① 教育目的・目標を確立している。	1	学科・専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。	大学の「立学の精神」や「教育推進宣言」における中心的概念（「高い知性・善美な情操・高雅な徳性」や「主体性・論理性・実行力」など）を教育目的に反映させている。	大学の理念・目的と学科の教育目的との関係がすでに明確にされているので、学科運営委員会の指導によって学科FD研究会を開催し、学科教員全体での理解の共有を図る。	令和3年度
		3	学科・専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応えているか定期的に点検している。	教育目的を達成するための「教育目標」として、「教育学・保育学の優れた知見を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、国内・国外の様々な教育・保育の場において必要とされる実践的指導力、高い意欲と創造性を身につけること」を設定し、本学科の特徴を表現している。	学科の教育目標がすでに明確にされているので、学科運営委員会の指導によって学科FD研究会を開催し、学科教員全体での理解の共有を図る。	令和3年度
	③ 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。	1	三つの方針を関連付けて一体的に定めている。	三つの方針は、それぞれに関連付けて一体的に定めており、学科自己評価委員会がその整合性について年度ごとに点検を行っている。	学科自己評価委員会における点検結果を学科内で共有し、学科運営委員会を通じて改善を図っている。	令和3年度
		2	三つの方針を組織的議論を重ねて策定している。	大学の理念・目的にもとづいて学科の教育目的および教育目標を設定しているため、学科の三つの方針も、大学の3つの方針と整合している	三つの方針は毎年度更新の際に学科自己評価委員会で検討している。	令和3年度
		3	三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。	学科の教育研究活動について、学科自己評価委員会が三つの方針にもとづいた点検を毎学期行っている。	学科自己評価委員会における点検結果を学科内で共有し、学科運営委員会を通じて改善を図っている。	令和3年度

自己点検・評価シート

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

		自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
基準Ⅱ-A 教育課程	① 学科・専攻課程ごとの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に示している。	1 卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。	学位授与方針は、「知識・技能」「技能・表現」「思考・判断」「態度・志向性」の4要素からなり、各要素については具体的な表現で2項目ずつ学習成果の内容をあげて説明している。学習成果の内容は、科目ごとに科目目的、到達目標として「カリキュラムマップ」に明示している。	必要なし	
		①卒業認定・学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。	学位授与方針には、卒業の要件は示されているが、成績評価の基準と資格取得の要件は示されていない。	成績評価の基準と資格取得の要件を、全学的な方針に合わせて記載する。	令和4年度
		2 卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。	学位授与方針のうち、「思考・判断」「態度・志向性」の2要素については具体的な表現で社会との関わりと国際的な活動を視野に入れて言及している。	必要なし	
		3 卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。	年度ごとに、学科教務運営チーム（教務担当幹事教授をリーダーとして、教務委員、共通教育委員、学校教育センター委員、免許・資格課程の責任者で構成）により、次年度入学生の卒業認定・学位授与の方針を年度ごとに検討し、必要があれば更新している。	学科自己評価委員会において、卒業認定・学位授与の方針を年度ごとに改めて点検する。	令和3年度
	② 学科・専攻課程ごとの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。	1 教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。	年度ごとに、学科教務運営チームにより、教育課程編成・実施の方針を卒業認定・学位授与の方針に沿って検討し、両者の関係は毎年見直している。	学科自己評価委員会において、3つの方針の整合性を年度ごとに改めて点検する。	令和3年度
		教育課程編成・実施の方針に従って、教育課程を編成している。	教育課程編成・実施の方針にもとづき、方針の各項目に対応する科目をバランスに留意しつつ各学期に配置している。学位授与方針と各科目の科目内容、到達目標との関連性は、「カリキュラムマップ」によって、また、科目間の関連性や順序性は「カリキュラムツリー」によって示している。	学科自己評価委員会において、教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性や課程修了時の学習成果の捉え方、科目配置の順次性などについて、年度ごとに点検・評価し、その内容を学科FD研究会において学科教員の理解の共有化を図る。	令和3年度
		2 ①短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。	短期大学設置基準にのっとり、「短期大学士（幼児教育学）」としての質を保証するための科目を、学習成果に対応するようバランスと順次性に留意しつつ、配置したカリキュラムを編成している。単位制度の趣旨に基づき、事前事後学習を含めた単位認定を行っている。そのために、シラバスには「準備学習（予習・復習等）」という項目を設けて、学生に指導している。	学科自己評価委員会において、教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性や課程修了時の学習成果の捉え方、科目配置の順次性などについて、年度ごとに点検・評価し、その内容を学科FD研究会において学科教員の理解の共有化を図る。	令和3年度
	②学習成果に対応した、授業科目を編成している。	教育課程編成・実施の方針にもとづき、「短期大学士（幼児教育学）」としての質を保証するための科目と、各種法令に定められた教員免許・保育士資格に必要な科目をバランスに留意しつつ各学期に配置している。教育に関する基礎理論や保育内容の基礎的科目をはじめとして保育指導法などの応用的・実践的な科目や、より専門的な内容の科目への履修へと進み、さらに教育・保育実習、教職実践演習を履修するというように、順序性に留意して開講期を設定している。課程修了時の学習成果は「幼児教育・保育研究」および「保育・教職実践演習」（いずれも2年次の必修科目）により、確認・評価される。	必要なし		

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

			自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
			③単位の実質化を図り、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、年間又は学期において履修できる単位数の上限を定める努力をしている。	各学期の修得単位数の上限を25単位(通年では50単位未満)としている(キャップ制)。	教育課程編成・実施の方針および教育課程を再検討し、修得単位数の上限を引き下げ、単位の実質化をより一層推進する。	令和3年度
			④成績評価は学習成果の獲得を短期大学設置基準等にとり判定している。	短期大学設置基準等にとり、成績評価の客観性、厳格性を担保するために、シラバスに「評価方法」を公開している。またその評価方法として「定期試験のみの評価」は極力避けることを学科内で共通認識事項とし(学科打ち合わせ会)、授業期間内の課題についてはシラバスに「課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法」という項目を設けて学生に公開し、学生との双方向的コミュニケーションを取るようになっている。	必要なし	
			⑤シラバスに必要な項目(学習成果、授業内容、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等)を明示している。			
			⑥通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には印刷教材等による授業(添削等による指導を含む)、放送授業(添削等による指導を含む)、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。			
			3 教育課程の見直しを定期的に行っている。	年度ごとに、学科教務運営チームにより、教育課程を卒業認定・学位授与の方針に沿って検討し、両者の関係は毎年見直している。	学科自己評価委員会において、教育課程について、年度ごとに点検・評価し、その内容を学科FD研究会において学科教員の理解の共有化を図る。	令和3年度
⑤	学科・専攻課程ごとの入学受入れの方針(アドミッション・ポリシー)を明確に示している。	1 入学受入れの方針は学習成果に対応している。	入学受入れの方針には、学科の教育課程と密接に結びついている教員免許状・保育士資格を明記し、教員や保育者として活躍するための資質・能力を高めようとする熱意や責任感を求めている。			
		3 入学受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。	入学受入れの方針には、学科の教育課程と密接に結びついている教員免許状・保育士資格を明記し、教員や保育者として活躍するための資質・能力を高めようとする熱意や責任感に加え、教科に関連して「文系・理系という枠組みに捉われず、国語、英語、日本史、世界史、数学、化学、生物などの科目を幅広く履修し、確かな基礎学力を備えておくこと」を求めている。	入学受入れの方針がすでに明確に示されているので、学科運営委員会の指導により、学科打ち合わせ等で、設定された受け入れ方針についての学科教員の理解を共有する。	令和3年度	
		4 入学受入れの方法は、入学受入れの方針に対応している。	指定校推薦入試では、入学受入れの方針に明記された学習成果(教員免許状・保育士資格)に関連した志望動機を面接で確かめている。また、公募制推薦入試、一般入試では、入学受入れの方針に「文系・理系という枠組みに捉われず、国語、英語、日本史、世界史、数学、化学、生物などの科目を幅広く履修し、確かな基礎学力を備えておくこと」と明記し、教員・保育士としての基礎学力を確かめている。	入試連絡会などで入試センターとの連絡・相談を密にして、選抜方法を随時検討する。	令和3年度	
		5 高大接続の観点により、多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定して、公正かつ適正に実施している。	本学が指定する高等学校からの入学受入れに関しては、明確な選考基準を設定した小論文と面接にて、公正かつ適正に選考している。	必要なし		

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

			自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
基準Ⅱ-B 学生支援	① 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。	1	教員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。			
			④授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。	毎年度4月に「非常勤講師懇談会」を開き、専任教員と非常勤講師が領域ごとに意思の疎通、協力・調整を図っている。またFD研究会を通じて領域間に共通の課題についても問題意識を共有し、解決に向けた情報交換を行っている。	懇談会は年度初めに一度しか行っていないので、オンライン会議などを活用して複数回実施し、PDCAサイクルに即した改善を行いたい。	令和4年度
			⑥学生に対して履修及び卒業に至る指導を行っている。	クラス担任制度を活用し、毎学期開始時のガイダンスで履修指導を徹底している。また1年次の「初期演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次の「幼児教育・保育研究」において、卒業認定・学位授与の方針に明記された学習成果の獲得ができるよう、担任教員が指導している。	必要なし	
	② 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的にしている。	3	学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。	クラス担任による「初期演習」(1年次)や「幼児教育・保育研究」(2年次)のほか、「幼稚園教育実習事前事後指導」(2年次)や「保育実習指導」などの科目で、当該学期の履修科目学習への動機づけを高める指導を行っている。	必要なし	
		4	学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。	(全学的な取り組みは教務部が記載) 幼児教育学科として、毎学期開始時の担任ガイダンスにおいて「履修上の注意」を配布し、google classroomの活用も併せて担任から履修指導を行っている。	必要なし	
		6	学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。	約30～40名のクラスを1名の担任教員が担当し、学習上の悩みなどの相談にのっている。学習成果は「教職ファイル」を2年間記録して、毎学期に担任が点検している。	必要なし	

自己点検・評価シート

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

			自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
基準Ⅲ-A 人的資源	②	専任教員は、教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。	1 専任教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。	学内システム上において、研究成果（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）を随時更新できるようにしており、研究に対する自己評価も毎年度末に提出して学科長が点検することで、教員の研究活動を評価している。	年度ごとの研究成果の更新、自己評価の点検を、次年度の研究活動につなぐことのできる制度を導入する。	令和4年度